

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成・見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4675300182
法人名	有限会社 ケアサービス研究所
事業所名	グループホーム コスモス
訪問調査日	平成 20 年 6 月 6 日
評価確定日	平成 20 年 6 月 25 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月9日

【評価実施概要】

事業所番号	4675300182
法人名	有限会社 ケアサービス研究所
事業所名	グループホーム コスモス
所在地	鹿児島県始良郡始良町大山字小坂元69番 (電話) 0995 - 67 - 8280
評価機関名	特定非営利法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7号
訪問調査日	平成20年6月6日

【情報提供票より】平成20年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 26 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	10 人 利用定員数計 9 人 常勤 3 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 7.8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1階建ての 1階 ~ 階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000円	その他の経費(月額)	15,000円(管理費)	
敷金	有()円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり		866 円		

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 81歳	最低	55歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	青雲病院 尾田胃腸科内科医院 久永医院 徳重医院 橋村歯科
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】


グループホームコスモスは始良町の農村地帯にあり、リビングからは四季折々移り変わる田園風景が広く見渡せる。運営者、管理者は、現代の核家族化した社会で、ご家族がお年寄りを大切にしたい思いの実現が困難であることを理解し、ご家族に代わって入居者の方が安心して、地域の中でその人らしく楽しく暮らし続けることができるよう取り組んでいる。運営者・管理者の思いは入居者、職員に通じ、ホーム内が明るい笑いに包まれている。ご家族の来訪、ご家族宅へ訪問、地域の人との交流が活発で、和やかな信頼関係ができています。素晴らしいホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、要改善点は特になし。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 定例の職員会議で自己評価を取り組む意義について話し、自己評価についても話し合っている。一度にできないところは毎日のカンファレンスでも職員と一緒に前年度の評価と比較しながら、前年度よりより良くなった点、もっと今後課題としたい点など話し合いながら作成している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) ご家族代表、地区の区長、老人会長、自治会長、民生委員、校区社会福祉協議会会長、包括支援センター職員が毎回の会議に出席され、2ヶ月に1回の会議が開催されている。会議では、ホームの年間・月間行事、健康診断、感染予防、機能訓練、緊急連絡網、認知症研修など、活動状況報告、外部評価についての報告、それらに対する意見、質問、助言など活発な会議が行われている。運営推進会議での意見をサービスの向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の意見、相談、要望、苦情など聞くために、毎月見直しをしたモニタリングシートとコスモス便りを持って自宅訪問をすることで直接話す機会を作り、ご家族の来訪時にも一緒にお茶を飲みながら話す機会を作っている。家族会やご家族の行事参加など、意見や要望を聞く機会もある。意見や、要望に対して職員で話し合いサービスに反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入して、ゴミの分別収集、草取り、いきいき部会などの行事に参加している。地域の案山子祭りには、かかしの作品出展や見物、婦人会のおにぎりづくりに参加している。小・中学生の体験学習受け入れや地区の防災組織にも参加し、地域の店での買い物をする等、日々地域の人達と積極的に交流している。



2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に掲げられたホームの理念は現在も基本理念として、重要事項に記載されている。基本理念の中には、入居者の方が地域の中で自由に交流できる暮らしを支援することも掲げられている。日頃は職員と一緒に考えた簡潔な理念で表現している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は毎日のミーティングや毎月の職員会議に於いて、日常業務が理念にそっているか職員と意見交換をしている。事業所の基本理念にそって、職員と意見を交えながら簡潔な理念を作成し、パンフレット、玄関入り口、居間などに掲示し、共有しながら日々の業務に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は自治会に加入し、塵の分別、草とり、いきいき部会などの行事に参加している。地域のかかし祭りには、かかしの作品展、見物、婦人会のおにぎりづくりの手伝いなどしている。小、中学校の体験学習を受け入れ、老人会では認知症講演会を行うなど地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は今年度自己評価を職員会議、日々のミーティングなどを通じて、前年と比較しながら取り組みをしている。前年と比較して地域の人との挨拶が多くなった。ご家族宅への訪問を行ったことで、ご家族にきめ細かい報告ができた。運営推進会議が順調に進んだなど具体的に向上しているものが見えたことを認識している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回大山自治公民館にて開催している。会議に於いてホームの活動状況の報告を行い、ホームの運営について参加者の意見や質問、助言など話し合わせ運営向上に活かしている。メンバーの出席も良く活発な会議である。議事録を作成し次回出席者に配布して公開している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場の窓口や包括支援センターには度々訪問して、ホームやご家族など現場の状況を伝えるなど話し合いをしている。ホームは高齢社会の現状を伝える役目と捉え、運営推進会議の議事録も役場職員に提出し、周知してもらうよう情報開示し、行政と共に協働していくよう努力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	入居者の状況や報告は毎月家庭訪問をして、毎月のモニタリングシートとコスモス便りで本人の様子、行事の様子など詳細な報告をしている。遠くのご家族への報告はコスモス便り、手紙やファックスを使用している。金銭の預かりはなく、立替払いをして月末に精算している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時、ホーム側からの家庭訪問、家族会、投書箱など意見、相談、苦情、を受け付ける対応をしている。現状では大きな問題はないが、相談があれば、職員でそれに対処できるよう話しあい、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は異動が入居者にダメージを与えることを理解して、職員が定着できるよう、悩みを抱え込まないよう相談できる体制を作ったり、懇親会も随時行っている。昨年1年間に1人の異動のみでその努力が伺える。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員が組織され、年間の研修計画が立てられ毎月研修課題にそって新人、現任勉強会をしている。外部研修にも必要な研修の案内をし参加させ、参加者は内部で研修内容を報告し、出席できなかった人も学習できるよう伝達講習をしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は全国及び鹿児島支部グループホーム協議会に加入し、学会で事例発表を行うなど活躍している。又始良伊佐地区グループホーム協議会の会長役を引き受けるなど活躍されている。職員は地区グループホーム協議会で勉強会をしたり、踊りやパネルも発表するなど同業者との交流をしている。他のホームからの実習も受け入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ホームへ入居までには、本人やご家族に見学や誕生会に参加してもらう機会を設け職員や他の入居者と馴染んでから、安心して入居できるよう取り組んでいる。入居に半年かかるなど困難な事例もあるが、ホームの入居者は同法人の通所介護サービスを通じて親しくなっている人が多くスムーズに入居できている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は日常生活場面の中で、入居者の個性を尊重しながら、教えて頂く気持ちで接し、共に過ごし、感謝の言葉かけをしている。ホーム内だけの生活だけでなく自宅の草取り、猫の世話、公共料金の支払いなどに付き合い、本人の望むことを大切にして過ごしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は日常の会話や態度、気づきを個人記録や日誌に記録し、その記録とご家族から情報提供されたものを参考にさまざまな角度から本人の思いや意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人やご家族の意向、思いを反映させるような介護計画を作るよう、職員が日々のカンファレンスや定期の会議で入居者の情報を持ち寄り、それぞれの意見やアイデアを出しあって、それらが反映されるように介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の介護計画は毎月見直しを行い、変化が無いか検討している。ご家族にも毎月報告している。3ヶ月に1回は定期見直しをして介護計画を作成している。又状況に変化があった場合は、本人やご家族と相談して現状に即した新たな介護計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし安心して生活の継続を維持できるよう支援している。本人の自宅への帰宅、図書館行き、寺参り、家族の入院見舞い、墓参りなどの自主サービスを行うなど多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の意向を尊重してかかりつけ医の決定がされている。協力医療機関以外の医療機関の受診は、基本的には家族が同行することになっているが、家族の同行が不可能な場合職員が代行している。かかりつけ医には電話やファックスにて情報伝達をして、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期に関する指針を家族に説明し家族の意向を把握している。重度化した場合本人、ご家族、かかりつけ医と、繰り返し話し合い、全員で方針を共有し支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者への言葉かけは一人ひとりの人格を尊重した適切な言葉を把握し接している。職員とは雇用契約に守秘義務の取り決めを行い、パソコンを含む関係書類の持ち出しを禁止する等入居者のプライバシー確保の徹底を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は入居者の今までの家庭生活を基盤と考え、入居者のペースに合わせたその人らしい暮らし方にそえるよう、その人の朝の様子を見て、本人の希望を聞き職員同士でどのような支援をするのがベストか話し合って過ごし方を決めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方と一緒に献立会議を行い希望の食材、メニューを作成し、一緒に買い物にでかけ、一緒に調理し、共に食事をしながら、その日の出来具合や味など話題にしながら食事を楽しんでいる。ミキサー食の人にも、もとの形を見せたりして食欲が出るよう話しかけている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望する日、時間帯に合わせ入浴を支援している。夏場はシャワーを2度利用する人にも対応している。入りがらない人にも職員は歌を歌いながら一緒に入浴するなど楽しめるよう支援している。体調不良で入浴できない場合も足浴や清拭を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理、畑仕事、裁縫と得意なことに一人ひとりの出番があり、力を発揮している。買い物、遠足、夏祭りや運動会、田植え、芋掘りなどに参加し楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の本人の体調に合わせ、天気のよい日は日課として散歩に出かけている。食材の買い物、菜園作業、神社参り、同じ経営施設との合同レクリエーションなど外出支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間を除いては施錠は行っていない。徘徊が予想される人には注意を払い見守っており、出かけられる時は職員と一緒に出かけている。万一来に備え、近くの人にも協力をもらえるよう日頃から散歩の出会いには挨拶している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回消防署による消火、避難、夜間想定など含めた消防訓練を地域の人も参加して実践している。事業所は消防・防災委員会を設置し、毎日々元確認、施錠、防災用水の点検、報告を行い、又定期的に水害、地震、台風にも備えた対策、避難訓練、通報訓練など事業所の自主訓練や防災に関する勉強会を行い、全員対処できるよう身につけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力医療機関から献立表の提供を受けて参考にしながら、一人ひとりの状態、好み、習慣に応じバランス、カロリーを考へて献立、調理をしている。食事、水分の摂取量も記録し、1日の個別の状況を把握し、状態に応じ捕食、減食にも気を付けている。水分量は1日1500ccを目安とし、入浴中や夜間の補給もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所は職員と入居者が一緒に食事の準備、片付けができるように工夫され、一人ひとりがその場に集まり家族のように楽しく過ごしている。季節の移り変わりが楽しめる田園風景が見えるリビングや、調理場の水の音、野菜を切る音、料理の臭いが伝わってくる和室もあり落ち着ける共用空間となっている。食堂や居間には紫陽花が飾られ季節感が採り入れられている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはホーム備え付けのベット、タンスが置かれている。ベット、タンスは各部屋によって違ったものであり個性のある部屋を工夫されている。入居者は使い慣れた自分の鏡や花瓶、針箱、座椅子などを持ち込みその人が居場所として落ち着けるような部屋になっている。		